

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：特定非営利活動法人日本ボリビア人協会

1. 事業の概要

事業名称	スペイン語版「生活者としての外国人」のための日本語教育通信講座 完全版
事業の目的	平成26年度から取り組んで来た、スペイン語版「生活者としての外国人」のための日本語通信講座事業の試験運用最終年度として、講座に必要な教材を完成させ(改訂含む)、入門・初級の2つのコースを2地域・2団体で同時開催し、次年度以降の展開に備えた最終確認を行う。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	愛知県・三重県はともに景気回復傾向にあり、2008年秋のリーマンショック以降減少気味であった南米日系人が再び国内外から集まってきている。しかし、彼らの日本語力や生活知識は依然として不足しているにもかかわらず、公的な日本語学習機会が増えていないため、働きながら子育てしながら日本語・生活知識を習得する機会が以前に増して不足している。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	事業開始時に、日本語通信講座に関して団体内で共有していた課題に対し、以下の改善策に取り組んだ。 課題1. 日本の文化・習慣や生活マナー等に関する知識を得る機会がない。 →改善策1. 動画教材のテーマに生活知識を加えた。 課題2. 自宅で学習していてわからないことが出て来たとき、すぐに聞ける人がいない。 →改善策2. 動画教材(youtube)のコメント欄やSNSを活用して、できるだけ早く疑問に答える体制をつくった。 課題3. 学習環境が孤独になりがちで、モチベーションを維持するのが難しい。 →改善策3. コーディネーターからの声かけを増やすとともに、実力テスト(ゴール)を開催し最後までやりぬけるよう促した。
事業の実施期間	平成 29年 6月～平成 30年 3月(10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 晴苗	四日市大学
2	藤井 修	知多市にほんごの会
3	谷口 静子	知多市にほんごの会
4	杉浦 理恵	知多市市民活動推進課
5	永田 慶一	津市市民交流課
6	山田 ロサリオ	NPO法人日本ボリビア人協会
7	土井 佳彦	NPO法人日本ボリビア人協会
8		
9		
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年6月23日 (金)18:30～20:30	2時間	知多市市民活動センター	川崎徹夫、杉田理恵、谷口静子、土井佳彦、藤井修、山田ロサリオ	1 事業全体説明 1) スクーリングについて 2) 教材発送・課題提出について 3) 実力テストについて 2 質疑 3 その他
2	平成29年6月30日 (金)10:00～12:00	2時間	津センターパレス	伊藤晴苗、土井佳彦、山田ロサリオ	1 事業全体説明 1) スクーリングについて 2) 教材発送・課題提出について 3) 実力テストについて 2 質疑 3 その他

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・知多市・津市・津市国際交流協会：広報等 ・知多市にほんごの会：広報協力、運営委員、地域情報の提供等 ・(株)ラーンズ：教材作成、通信教育ノウハウの提供等 ・フジオカヒロタカデザイン事務所：動画撮影・編集 ・(特活)多文化共生リソースセンター東海：日本語教室運営アドバイス、各種情報提供等
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	土井は山田との相談のうえ、津市および知多市での日本語教育通信講座指導者(伊藤・藤井・谷口)らと連携しながら講座を運営した。また、株式会社ラーンズおよびフジオカヒロタカデザイン事務所との協働により、動画教材の開発を行った。 伊藤・藤井・谷口は、土井・山田と相談しながら日本語教育通信講座を運営した。 山田は、各事業において外部協力者(津市および知多市の行政、国際交流協会)との折衝を担った。
----------	--

3. 各取組の報告

<取組1>									
取組1	取組の名称		スペイン語版「家で学べる日本語教育通信講座」(完成版)						
	取組の目標		津市・知多市の両方で、それぞれ昨年度改定した入門コースとH27年度に実施した初級コースの改訂版を同時に実施し、同時に複数地域で複数団体による複数コースを運営するノウハウを身につけ、来年度以降の日本語通信講座の全国展開の準備を完成させる。						
	取組の内容		◎通信講座(自宅学習) 1)入門コース(2016改訂版) 102時間(自宅学習16時間×6回、提出課題1時間×6回 *目安) 第1号 ひらがな、あいさつ、小テスト 第2号 カタカナ、日付、時間、値段、小テスト 第3号 ひらがな・カタカナ復習、買い物時の語彙・表現、小テスト 第4号 ひらがな・カタカナ復習、娯楽施設の語彙・表現、日本の祝祭日、日本の年中行事、小テスト 第5号 ひらがな・カタカナ復習、病院・薬局での語彙・表現、医療通訳・多言語問診票、小テスト 第6号 ひらがな・カタカナ復習、緊急時・災害時の語彙・表現、避難準備情報、防災メール、小テスト * 毎号、提出課題の添削を行なった。 2)初級コース(2017改訂版) 102時間(自宅学習16時間×6回、提出課題1時間×6回 *目安) 第7号 ひらがな・カタカナ復習、求職時・職場での語彙・表現、小テスト 第8号 ひらがな・カタカナ復習、学校生活での語彙・表現、小テスト 第9号 ひらがな・カタカナ復習、銀行・郵便局での語彙・表現、小テスト 第10号 ひらがな・カタカナ復習、旅行・交通機関の語彙・表現、小テスト 第11号 ひらがな・カタカナ復習、パソコン・SNSの語彙・表現、小テスト 第12号 復習、まとめ * 毎号、提出課題の添削を行なった。 ◎スクーリング 13時間(2時間×5回、3時間×1回) ・進捗状況の確認、学習者からの質問対応、学習アドバイス等						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		三重県津市では、津市・(公財)津市国際交流協会との連携のもと、当団体が講座を運営した。 愛知県知多市では、知多市との連携のもと、主に知多市にほんこの会が講座の運営を行った。指導者相互のノウハウの交換のため指導者会議を実施した。これらの取り組みにより、官民連携による日本語通信講座の運営ノウハウが双方の身についた。						
	取組による日本語能力の向上		【取組の内容】欄に掲げたテーマに関する日本語(語彙・文法・会話)の習得および生活知識が学べた。						
	参加対象者		三重県および愛知県在住・在勤のスペイン語圏の外国人				参加者数 (内 外国人数)		24人 (24人)
	広報及び募集方法		チラシ、SNS、個別の声かけ						
	開催時間数		総時間 217時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		三重県、(公財)三重県国際交流財団、津市、(公財)津市国際交流協会、知多市、知多市にほんこの会、株式会社ラーンズ						
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国		ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	0		0	0	0	0	0	0	0
	ボリビア(16人)、ペルー(7人)、エクアドル(1人)								
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年7月29日 (土)10:00～12:00	2	つつじヶ丘コミュニティセンター	5	第1回スクーリング	・講座概要説明 ・プレースメントテスト	谷口静子、藤井修 ※指導後採点1時間	山田ロサリオ	
2	平成29年7月30日 (日)15:00～17:00	2	津センターパレス	11	第1回スクーリング	・講座概要説明 ・プレースメントテスト	伊藤晴苗 ※指導後採点1時間	山田ロサリオ ※指導後採点1時間	
3	平成29年8月25日 (金)18:00～20:00	2	朝倉団地内事務所	4	第1.7号提出課題添削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	谷口静子、藤井修	キロス・バーバラ	
4	平成29年8月28日 (月)18:00～20:00	2	アスト津	13	第1.7号提出課題添削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	伊藤晴苗	大西アレックス、山田ロサリオ	
5	平成29年9月26日 (火)18:00～20:00	2	アスト津	8	第2.8号提出課題添削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	伊藤晴苗	大西アレックス、山田ロサリオ	
6	平成29年9月28日 (木)18:00～20:00	2	朝倉団地内事務所	4	第2.8号提出課題添削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	谷口静子、藤井修	キロス・バーバラ	
7	平成29年10月20日 (金)18:00～20:00	2	朝倉団地内事務所	4	第3.9号提出課題添削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	谷口静子、藤井修	キロス・バーバラ	
8	平成29年10月27日 (金)18:00～20:00	2	アスト津	8	第3.9号提出課題添削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	伊藤晴苗	大西アレックス、山田ロサリオ	
9	平成29年11月12日 (日)14:00～16:00	2	つつじヶ丘コミュニティセンター	6	第2回スクーリング	・復習 ・質疑応答	谷口静子、藤井修 ※指導後採点1時間	キロス・バーバラ、仲屋デルマ	
11	平成29年11月21日 (火)18:00～20:00	2	朝倉団地内事務所	4	第4.10号提出課題添削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	谷口静子、藤井修	キロス・バーバラ	

12	平成29年11月26日 (日)13:00～15:00	2	津センターパ レス	8	第4,10号提出課題添 削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	伊藤晴苗	大西アレック ス、山田ロサリ オ
10	平成29年11月26日 (日)15:00～17:00	2	津センターパ レス	3	第2回スクーリング	・復習 ・質疑応答	伊藤晴苗 ※指導後採点1時間	大西アレックス 山田ロサリオ ※指導後採点1時間
13	平成29年12月21日 (木)18:00～20:00	2	朝倉団地内 事務所	3	第5,11号提出課題添 削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	谷口静子、藤井 修	キロス・バーバ ラ
14	平成29年12月25日 (月)18:00～20:00	2	津センターパ レス	4	第5,11号提出課題添 削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送、次号送付	伊藤晴苗	山田ロサリオ
15	平成30年1月25日 (木)18:00～20:00	2	朝倉団地内 事務所	3	第6,12号提出課題添 削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送	谷口静子、藤井 修	キロス・バーバ ラ
16	平成30年2月4日 (日)13:00～16:00	3	つつじヶ丘コ ミュニティセン ター	6	第3回スクーリング	・復習 ・アチーブメントテスト ・修了証授与、アンケート	谷口静子、藤井 修	キロス・バーバラ、 テオドラ・サラサ ル、仲屋デルマ
17	平成30年2月25日 (日)15:00～17:00	2	津センターパ レス	4	第3回スクーリング	・復習 ・アチーブメントテスト ・修了証授与、アンケート	伊藤晴苗 ※指導後採点1時間	大西アレックス 山田ロサリオ ※指導後採点1時間
18	平成30年2月25日 (日)17:00～18:00	1	津センターパ レス	4	第6,12号提出課題添 削	・添削 ・コメント、翻訳 ・返送	伊藤晴苗	大西アレックス 山田ロサリオ

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年7月29日】
第1回スクーリング(知多クラス)
9:00～ 会場設営等準備
9:30～ 受付
10:00～ 講座概要説明、講師・受講者自己紹介
11:00～ プレースメントテスト
11:30～ 添削
12:00～ 終了、片付け



○取組事例②

【第9回 平成29年11月12日】
第2回スクーリング(知多クラス)
13:00～ 会場設営等準備
13:30～ 受付
14:00～ 復習
15:30～ 質疑応答、個別相談対応
16:00～ 終了、片付け



(2) 目標の達成状況・成果

三重・愛知2県で同時に2つのコース(入門・初級)を開催することができた。運営体制に大きな問題もなかった。
日本語の習得に関しては、第1回スクーリング時のプレースメントテストと第3回スクーリング時のアチーブメントテストの結果を比較したところ、両方とも受験した4名中、全員が得点を伸ばした。
(プレースメントテスト結果→アチーブメントテスト結果)
3→23、17→48、16→27、0→43

(3) 今後の改善点について

講座の内容については、入門コースにおいて、文字の読み書き(vol.1,2)と会話・文法(vol.3～6)の間で難易度が上がることから、vol.3以降に挫折してしまう学習者が複数出てしまう。ここでのフォローアップが課題である。一方、初級コースにおいては、内容自体はニーズやレベルに合ったものであるものの、一部に文字の習得(vol.1,2)を希望する者もいるため、初級コース受講者への文字学習のフォローについて検討する必要がある。
また、昨年度に続き、スクーリングの受講者数が低迷している。背景には、労働環境の変化により土日であっても仕事が入り、参加が難しくなっているようだ。今後はオンラインでの学習指導や相談対応、各種テストの実施も検討が必要。

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成29年8月6日】

日本語通信講座用動画教材撮影(vol.7)

テーマ: 仕事

内 容: ～が～てあります／～から／～たいです／～たら／～て、～て、～／～方／～のうち、～

16:30～ 会場設営等準備

17:00～ 撮影開始

19:00～ 撮影終了

19:30 撤収



○取組事例②

【第5回 平成29年11月26日】

日本語通信講座用動画教材撮影(vol.11)

テーマ: コンピューター

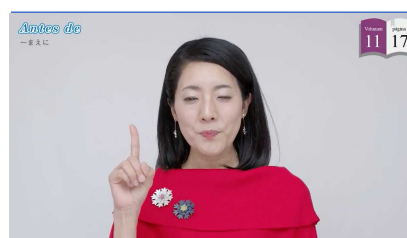
内 容: ～と、／まず、～／～ながら／～てから／～まえに

13:30～ 会場設営等準備

14:00～ 撮影開始

17:00～ 撮影終了

17:30 撤収



(2) 目標の達成状況・成果

予定通り、vol.7～11の動画をすべて撮り終え、動画共有サイト(YouTube)にアップロードし、学習者に提供できた。
平成30年3月20日時点で、計1,333回再生されている(受講者24名)。

(3) 今後の改善点について

動画の閲覧者からの反応は非常によく、とてもわかりやすいと好評を得ている一方で、もっと多くの文法説明がほしいなど、充実を求める声が多く、それに対応するため今後の予算確保が大きな課題になる。

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例

日本語通信講座第1～11号(本冊、提出課題)から問題を抜粋し、100点満点となるよう配点した「実力テスト」(案)を作成した。その後、日本語指導者や補助者の意見をもとに設問・配点を確定させ、(株)ラーンズにデザイン・印刷を発注した。

(2) 目標の達成状況・成果

日本語通信講座第1～11号(本冊、提出課題)に基づいた「実力テスト」を作成することができた。

＜主な内容＞

・ひらがな、カタカナ

・数字、日時、値段

・語彙、文法

* 詳細は別添「実力テスト」参照

(3) 今後の改善点について

問題数やページ数、テスト時間の都合上、生活知識よりも日本語の文字・語彙・文法の習得度を優先させた。生活知識については別の方法も含めて習得度を確認していきたい。また、日本語の習得についても、インターネット等他の方法でのテスト実施も検討したい。

＜取組4＞

取組4	取組の名称		2017年度「ARBJ日本語通信講座 実力テスト」開催									
	取組の目標		日本語通信講座(第1～12号＋生活知識)の内容に関する実力テストを実施し、理解度を測ると同時に学習のモチベーションの1つとする。									
	取組の内容		・趣旨説明 ・テスト ・採点 ・結果発表 ・上位者表彰									
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
	取組による体制整備		「実力テスト実行委員会」を設置し、当団体が実施する日本語通信講座の受講の有無を問わず、日本での生活に必要な日本語の習得や知識の理解度を測る機会を新たに設けた。これにより、今まで以上に日本語学習が動機付けられるとともに、受講者に対しては学習成果を確認しその後の継続学習を促し、未受講者に対しては受講を働きかける機会とした。									
	取組による日本語能力の向上		日本語通信講座で取り上げた日本語(文字、語彙、文法)および生活知識の習得が強化された。									
	参加対象者		日本語通信講座受講経験者等20名					参加者数 (内 外国人数)		5人 (5人)		
	広報及び募集方法		SNS、個別の声かけ									
	開催時間数		総時間 3時間(空白地域時間)		時間							
	主な連携・協働先											
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル			
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ボリビア(3人)、アルゼンチン(2人)										
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名			
1	平成30年3月11日 (日)15:00～18:00	3	名古屋プライムセントラルタワー	5	実力テスト	・テスト ・添削、返却		谷口静子、藤井修				
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年3月11日】

14:00～ 会場設営等準備

14:30～ 受付

15:00～ 説明、テスト開始

17:00～ テスト終了、添削

17:30～ 採点結果発表、個別指導

18:00～ 片付け、退室



(2) 目標の達成状況・成果

受講者数は定員20名に対し5名と非常に少なかった。
結果は100点満点中、17点、58点、69点、97点、99点とバラつきが大きかった。
採点後の個別指導が好評で、今後の継続学習につながると思われる。

(3) 今後の改善点について

受講者のうち、通信講座の内容をよく勉強し、理解できている人は点数が高く、そうでない人は点数が低かったことから、講座受講とテストの点数は関連しており、内容も適切だったと考えられ、特に改善点はみつからなかった。
一方、年度末の繁忙期に実施したためか、受講者の突然のキャンセルも多かった。参加しやすい時期での実施を検討したい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・平成26年度から取り組んで来た、スペイン語版「生活者都市との外国人」のための日本語通信講座事業の試験運用最終年度として、講座に必要な教材を完成させ(改訂含む)、入門・初級の2つのコースを2地域・2団体で同時開催し、次年度以降の展開に備えた最終確認を行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・2地域(愛知県・三重県)で、それぞれ2コース(入門・初級)を同時開催したが、運営面では問題なく実施することができた。
・動画教材の作成や、スクーリング、実力テストといった、学習成果を図るためのツールと機会も設けることができた。
・次年度以降の実施に向けて、予定していたすべての教材(テキスト、音声、動画、テスト等)が揃い、翻訳修正等を行って内容も固まり、全国どこからでも希望者に受講してもらうことができる体制が整った。これをもって次年度は、東海地域以外での広報と運用を行える。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・当団体が主催できる講座は1箇所のみで、他地域での開催となれば地元団体やキーパーソンの協力が必要不可欠であり、この点で知多市での開催が非常にうまくいっている。
・具体的な連携として、(株)ラーズには教材作成と通信講座のノウハウ提供を、NPO法人多文化共生リソースセンター東海には他地域での開催において地元の協力者(自治体・NPO等)探しや必要に応じて講座の運営協力を、そしてフジオカヒロタカ・デザイン事務所には動画教材の作成協力をいただいた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・SNSや当該地域の外国人コミュニティを通じて、広く周知できている。
・事業成果については、年度末の報告会開催や団体facebookページを通じて発信しており、また教材は文化庁の「日本語教育コンテンツ共有システム(NEWS)」への掲載によりだれでもテキスト等をダウンロード可能となっている。

(5) 改善点、今後の課題について

・依然として、自宅学習にどこまで寄り添い、モチベーションを維持・向上させ、学習効果を高めるかは課題である。
・スクーリングや実力テストといった、決められた日時に決められた場所に集まってもらうためにはもっと工夫が必要である。
・他地域展開するために、各地域の協力者(自治体、国際交流協会、日本語教室、外国人コミュニティ等)とのつながりを増やしていきたい。

(6) その他参考資料